

本年1月4日に当協会（大阪市住之江区）にて行われました、事務総長 石毛博行 による「2024年 年頭あいさつ」を下記の通りご報告いたします。

記

事務総長年頭あいさつ

〇はじめに

年頭のあいさつの前に、元旦に発生しました「令和6年能登半島地震」、また、翌日の羽田空港での「航空機事故」により、お亡くなりになりました方々に、ご冥福をお祈りするとともに、ご家族の皆様にご心よりお悔やみを申し上げます。

また、被害にあわれた方々に衷心よりお見舞い申し上げます。

現在、人命救助、支援などに当たられている方々に感謝します。心より敬意を表します。

それでは、新年にあたりまして、職員の皆さまにご挨拶申し上げます。

〇2023年を振り返って

今月で協会設立から5年が経ちます。

これまで万博の準備に携わった職員は千人を超えます。

まず、この機会に、今まで携わってきた全ての方々に感謝申し上げます。

この1年間で、目指すべき山は、よりクリアになり、課題も具体化してきました。その中で、昨年夏頃から「海外パビリオンの準備」の遅れへの「厳しい指摘」があり、続いて、「会場建設費」や「運営費」、「リング」について「厳しいご批判」があるのも事実です。

一方で、建設事業者が決まったタイプAのパビリオンは35カ国となり、タイプBとタイプCは、併せると約100カ国になります。今年夏の完成を目指して着々と建設が進んでいます。リングも約4割が完成し、堂々たる姿を目の前に現し始めています。シグネチャーパビリオン、民間パビリオン等も着工に入っています。

公式参加国との「やりとり」も飛躍的に増えました。ワンストップショップを通じて、催事、宿舎、保険から商業活動に至るまで、ありとあらゆる項目の相談に乗っています。

会場運営、危機管理、会場への交通などロジスティックスについても、着々と準備が進められています。

「催事検討会議」が立ち上がり、催事の準備が本格化しています。
機運醸成についても、開幕500日前に、前売りチケットの販売を開始しました。
モノレールだけだったラッピングも、飛行機や鉄道、バスへと大幅に拡充しました。
大阪の街には、大丸デパートの「大きなサイネージ」や大阪市役所前の「巨大モニュメント」をはじめ、街のあちこちにミyakumiyakuが出現しています。

組織的には、9月に小野副事務総長を迎え、5人体制とし、総合戦略室を設置し、課題解決に向けた取組みを抜本的に強化しました。

この1年間を振り返ると、昨年の年頭挨拶で申し上げた通り、「万博の実行・実現に向け、着実に前進した1年」であったと思います。 職員の皆様には、心から感謝申し上げます。積み上げてきた成果に大いに自信を持って頂きたいと思います。

○今年はどういう年か

さて、今年はどういう年でしょうか？

今年、過去5年間の成果を踏まえた「万博の成功・実現の年」です。 単に、万博の準備をするということではなく、「万博の成功」に向けて、「万博の成功」から逆算して、必要となる準備を行う年です。「万博の成功」は、偶然により、奇跡により、生まれるものではなく、用意周到な準備により達成されるものです。

ところで、皆さんは「万博の成功」をどうお考えでしょうか？

まず、内容・コンテンツです。

「万博」はいつの時代も、「世界を見せ」、「未来を見せる」場所であります。
1970年の大阪万博、2005年の愛・地球博、2021年のドバイ博もそうでした。
「まだ見ぬ世界」と「まだ見ぬ未来」を見せます。この期待を実現することが第一歩です。

加えて、その規模です。

150もの国々が、その数千万人の普通の人々が、184日間、リアルに一堂に集まる機会、世界がつながる機会を、そういうものを万博は提供します。

そのような機会は、万博を置いて他にはありません。

オリンピックが「アスリートによるスポーツの祭典」だとすれば、万博は「全ての人々に開かれた人類の知の祭典」と言えるでしょう。

このような万博の価値を、より多くの人々に知ってもらい、実際に万博に参加してもらうことが、万博成功への第一歩です。

特に、未来を担う若者や子供達には、万博で、「世界」と「未来」を五感で感じてほしい。そして、自分の頭で「世界」と「未来」を考えてほしい。これが「万博の成功」のカギだと思っています。

特に、『いのち』をテーマとする大阪・関西万博の持つ価値は、「コロナ」や「ロシアによるウクライナ侵攻」、「イスラエル・ガザ紛争」によって世界が「分断」の危機にある中、むしろ、かつてない程高まっています。

私たちは、主催者として、ポスト・コロナの最初の万博を、何としても成功に導かなければなりません。

○職員の皆さまへの期待とお願い

さて、そこで、「万博の成功を実現する年」2024年に臨むにあたり、皆さんへの「期待とお願い」を申し上げます。

そのために必要なことは、私は3つの「C」だと思っています。

その第一のCはチャレンジです。

万博という山登り、いよいよ最終ステージに入ります。

「後世に遺る万博」・「人生を掛けるに値する万博」とするためにも、職員の皆様、一人一人の「より一層のチャレンジ」に期待します。また、黒字経営を目指してチャレンジし続けます。

入場券を一人でも多くの方に買っていただけるよう、協会内に、本日、「入場券販売推進本部」を立ち上げ、私が本部長を務めることにしています。

第二のCはコミュニケーションです。

「協会は寄り合い所帯」と否定的にいう人もいますが、よく言えば、「多様性」があります。

その「多様性の力」を、化学反応させて総合化してゆくには、一人一人のコミュニケーションが大事です。

仕事は一人でするものではありません。チームで行います。情報も悩みも一人で抱え込まず、上司・同僚・部下と何でも共有しましょう。

第三のCはコンプライアンスです。

万博は国家事業であり、公的資金・税金が入っています。

企業の皆さんからの尊い寄付のお金・協賛が入っています。

いくら立派な、中身のある万博をしても、コンプライアンスが失敗すれば、全てが台無しです。

コンプライアンスは、万博が成功するための必要条件です。

最後に、今年は開幕一年前の重要な時期であります。

万博はお客様が来て、初めて万博になります。

お客様第一。

その意味で、今年は4番目のC、即ちCustomer、Customer satisfaction を先ほどの3つのCに加えたいと思います。

来場者のもとより、公式参加者、民間出展者、協賛者、催事参加者に至るまで、万博に関係する全ての人々が、われわれのCustomer、お客様であるとの視点を持ち、接することにしてきましょう。

以上、Challenge、Communication、Compliance。そしてCustomer satisfaction。

万博の成功実現に向け、四つのCを確りと心がけて欲しいと思います。

〇結び

先ほども触れました様に、昨年は万博の準備で厳しい指摘をたくさん受けました。

私はその度に、5年前、この万博誘致に成功したときのことを思い起こしました。

あの時、日本は、ロシアとアゼルバイジャンと誘致競争をして、世界の信認を勝ち取りました。

「日本なら万博を成功させてくれる」「日本で万博をしたい」と各国は投票したのです。

あの時、私たちは世界の国々と約束したのです。万博をきちんとやり遂げると。その重みを

片時も忘れてはいけないと思います。

今年は干支（えと）で言うと、甲辰（きのえたつ）です。

甲（きのえ）は、甲羅など堅いものを示します。その甲羅の中で 物事を耐え忍んでいることを示します。

そして、甲辰（きのえたつ）は今まで頑張ってきた人たちの努力が 実を結び、花を開く年と言われています。

我々の置かれた状況によく似ています。

皆さんの、その一歩が未来を動かす。

その一歩が「いのちかがやく」未来を創る。

皆さんのいのちが輝くことで「Customer・お客様のいのち」も輝きます。

世界と共に創る「みんなの万博」、我々の「人生の宝物になる万博」。

そういう万博を目指してゆきましょう。

皆さまと、ご家族の皆さまにとって、2024年が素晴らしい年となることを祈念して、私の挨拶といたします。

以上